

人生はこころの風景を探すことなのかもしれない



先生からの贈りもの

旧夕張市美術館 収蔵作品展 2024

8月3日 / 土 ~ 15日 / 木

拠点複合施設りすた

北海道夕張市南清水沢4丁目 48 番地 12

木下 勘二 1951 「窓辺の日まわり」

◆ 観覧無料

◆ 会期中無休

◆ 開場時間 10 時 ~ 18 時 30 分 (最終入場 18 時)

◆ 開場時間外の対応や配慮が必要な方は事前に申し出ていただければ、ご対応いたします。





木下勘二 1949 「窓辺」



木下勘二 1954 「野の牛」

木下勘二 1956
「入坑する人」



木下勘二 1964 「夕張岳」



木下勘二 1955 「すり山」



夕張から釧路へ

今回は、夕張市沼ノ沢出身の木下勘二先生（1917-1989）の作品を中心に展示します。

木下先生は、小学生の頃から絵を描き、1933年札幌工業学校在籍中に道展初出品。卒業後は三菱美唄礦業所に入社し、就業しながら制作を続けました。

1943年に三菱大夕張礦業所に転勤、戦後は教員として夕張市内の第二小学校、真谷地中学校、向陽中学校、南高校の順に勤めます。この間、風土に根差した作品や夕張メロンの箱のデザインを手がけました。

1970年釧路に赴任、退官後も制作を続けながら多くの美術家を育てたことで知られています。本展では木下先生の歩みを感じ取っていただければ幸いです。



かつて美術館があった。夕張市が財政破綻してしまった後も、文化を愛する人たちがその美術館を守ろうと努力し続けていた。

しかし、2012年2月の大雪の晚、老朽化した天井が雪の重みで崩落してしまう。それがきっかけで、閉館となってしまった。

時が経ち2020年、〈拠点複合施設りすた〉が開館したことに伴い、久しぶりに市内で展覧会を開き始めた。今回で3回目である。作品たちはすっかり目を覚まし、次の展示を待ち望んでいるようだ。

最盛期には11万人以上の人々が暮らした夕張。炭鉱マチならではの繋がりが、豊かな文化を育んできた。

そして美術館がなくなろうとも、託された作品や資料を見つめながら語りあうことで、新たな文化を生み育んでいる。

今回の展覧会でも、ゆっくりと観て、世代を越えて語りあえる場をつくる。こうして過去から託された作品や資料は現在へと結ばれて、未来は明るい方へ開かれていくだろう。



木下勘二
1957
「黒い川」



拠点複合施設りすた

◆ミニ展示のご案内◆

『つくっておくって石炭細工』



『夕張の学校』



◆催しのご案内◆

『おしゃべり美術館』～主催：札幌アートコミュニケーションズ～



作品について感じたことや考えたことを、参加者で自由に話しあいます。

私たちとゆっくりおしゃべりしながら、みんなで観ましょう！全3回です。

【日時】8月4日(日) 1回目午後2時～（1回目のみ学芸員による解説なども行います）

8月7日(水) 2回目午後2時～ / 3回目午後6時～

【参加費・申込】無料・不要



主催：夕張市教育委員会 問合せ：市社会教育係 ☎ 57-7711 企画展示：上木 和正 山口 一樹

